

2025 年 8 月 18 日

# 現代経営学演習

担当教員：宮尾学

## はじめに

現代経営学演習では、神戸大学 MBA プロジェクト方式の締めくくりとして、個人の修士論文プロジェクトに取り組みます。修士論文プロジェクトの目的は、これまで職場で感じていた問題について、職場の周囲のメンバーを納得させつつ、その問題解決に向けて自らが行動していけるような答えを導くことです。

専門職学位論文（いわゆる修士論文）では、アカデミックな論文とは違い、実践に役立つ示唆を導くことを重視します。ただし、その実践的示唆に向かって職場の周囲のメンバーを巻き込むためには、その主張に説得力がなくてはなりません。説得力があるための条件は様々なものがありますが、ここではその結論が科学的な方法で導かれたものであることを重視します。つまり、専門職学位論文では、実践に役立つ、説得力のある結論を導くために、科学的な方法を使うのです。

ゼミの目的はこの科学的な方法についての理解を深めながら研究を前に進めることです。実践からいったん離れ、抽象化した概念で問題を捉え直す。これまでの知の蓄積を知る。データにもとづき、検証可能な方法で結論を導く。こういった、研究をする上で必要な方法をしっかり学びます。

ただし、実践から離れすぎるのも良くないです。働きながら学ぶという神戸大学 MBA の利点を活かし、皆さんの組織が今抱えている問題をゼミの教室に積極的に持ち込んでいただきたいです。私の業界は特殊だから、とか、できるだけ自分の組織のことは話したくない（もちろん守秘義務はありますが）というのはダメです。そのうえで、ゼミ生同士でガンガン議論していただくことを奨励します。「誰かの話を聞くときは、必ず 1 つ質問を考える」がゼミのモットーです。

## スケジュール

9 月 13 日（土） テーマ「MBA で研究するとはどういうことなのか」

【1 限】

ゼミの運営についておおまかな説明をした上で、1 人 5 分の持ち時間で自己紹介をし

ていただきます。

<事前課題>

各自の自己紹介用の PPT 資料を作成してきてください。スライド枚数は最大 5 枚程度で、名前や所属・経歴等の自己紹介以外に、①研究の背景や問題意識、②リサーチクエスチョン、③結論のイメージと実践への役立て方、の 3 点を話してください。

【2 限】

MBA での研究について議論します。加護野忠男論文賞受賞作品を読み、それらの研究テーマや問題意識、研究方法について検討します。その議論を通じて、MBA で研究することの意義と限界について理解を深めます。

<事前課題>

以下の文献に目を通しておいてください。飯田 (2015) と秦 (2025) について、1) 論文の問題意識とリサーチクエスチョン、2) 研究方法、3) 主な結論、4) 読んで感じた疑問、を A4 一枚程度のメモにまとめておいてください。

上林憲雄 (2017). 「神戸大学 MBA で学ぶ—社会人ビジネススクール管見—」『日本労務学会誌』18(2), 30-47.

飯田宏道 (2015). 「新興国ボリュウムゾーン市場参入に向けた品質基準見直し時に直面する文化的コンフリクトへの対応に関する事例研究」『神戸大学大学院経営学研究科ワーキングペーパー』2015-9b.

秦真人 (2025). 「建設業の人材定着マネジメント—建設業特有のものづくりプロセスと離職に関する研究—」神戸大学専門職大学院 [MBA] (編)『MBA 論文の地平 1 2023 年度加護野忠男論文賞受賞作品集』神戸大学出版会,

【3 限～5 限】

ポスターセッションに参加します。

<事後課題>

ポスターセッションを受け、印象に残った研究は誰のどういった研究か、なぜその研究が自分にとって印象に残ったのかを、A4 一枚以内にまとめたレポートを作成してください。

10月11日(土) テーマ「研究の方法を学ぶ」

【1限】

様々な研究方法について学びます。まず、比較的わかりやすいサーベイ・リサーチの方法をとりあげます。それをベースに量的研究と質的研究の違いについても議論します。

<事前課題>

以下の文献に目を通しておいてください。

宮尾学, 三崎秀央, 大塚英美 (2023). 「Covid-19 パンデミックにおける日本企業のレジリエンス：組織構造とダイバーシティの役割」『国民経済雑誌』227(4), 135-150.

田村正紀 (2006). 『リサーチ・デザイン：経営知識創造の基本技術』白桃書房, 1-3 章.

服部泰宏 (2023). 『組織行動論の考え方・使い方：良質のエビデンスを手にするために(第2版)』有斐閣, 3-5 章.

【2限】

MBA 論文でよく使われるケーススタディの方法について理解を深めます。

<事前課題>

以下の文献に目を通しておいてください。

宮尾学 (2016). 「多義的な製品の開発と価値創出：三菱電機「蒸気レス IH」の事例研究」『組織科学』49(3), 21-32

高橋広行, 徳山美津恵, 吉田満梨, 佐藤善信(監修) (2015). 『ケースで学ぶケーススタディ』同文館, 1~5 章.

田村正紀 (2006). 『リサーチ・デザイン：経営知識創造の基本技術』白桃書房, 4 章.

【3限-5限】

早稲田大学大学院経営管理研究科尾崎弘之ゼミのメンバーをゲストに迎え、ジョイント・ゼミを行います。3-4 限は神戸大学側の研究テーマプレゼン、5 限は早稲田側からの研究発表とします。

3-4 限の神戸大学のパートは、一人あたりの持ち時間を 25 分として、プレゼン 10 分、

ディスカッション 15 分のプレゼンをしていただきます。プレゼンでは、おおむね以下の点を盛り込むようにしてください。

- 1) 自分が取り組みたいテーマとその理由（どのような問題を取り上げるのか、なぜその問題に関心を持ったのか）
- 2) 研究によって答えを出そうとする「問い」
- 3) 研究の基盤になりそうな参考文献のリスト（読んだ／読みたい文献リスト）

#### <事前課題>

プレゼンの資料を準備しておいてください。PPT スライドで 5 枚程度にまとめてください。この日は時間が限られているので、半分の 7 名にプレゼンしていただきます。残りは次回（12/6）にお願いします。

#### <事後課題>

「ケースで学ぶケーススタディ」で学んだことを受けて、「失敗から学んだ経験」についてインタビュー調査をしてください。少なくとも 1 名に 30 分～60 分程度のインタビューを行い、文字おこしをしておいてください。詳細はゼミで説明します。

### 12月6日（土）テーマ「問いを立てる」

#### 【1 限】

問いを立てる上で重要な、先行研究の調査について学びます。文献検索の方法や参考文献リストの作り方、文献管理ソフトの使い方などを取り上げます。

#### 【2 限】

「失敗から学んだ経験」のインタビュー調査をもとに「これをプレ調査としてリサーチ・クエスチョンを作るとするならば、どのような問いが立てられるか」をテーマに演習を行います。

#### <事前課題>

「失敗から学んだ経験」のインタビュー調査からどのような問いが立てられるか、自分なりの問いを考えておいてください。

以下の文献に目を通しておいてください。

佐藤郁哉 (2024). 『リサーチ・クエスチョンとは何か?』 ちくま新書.

### 【3限-4限】

研究テーマについてのプレゼンを行います。一人あたりの持ち時間を 25 分として、プレゼン 10 分、ディスカッション 15 分とします。プレゼンでは、おおむね以下の点を盛り込むようにしてください。

- 1) 自分が取り組みたいテーマとその理由（どのような問題を取り上げるのか、なぜその問題に関心を持ったのか）
- 2) 研究によって答えを出そうとする「問い」
- 3) 研究の基盤になりそうな参考文献のリスト（読んだ／読みたい文献リスト）

#### <事前課題>

プレゼンの資料を準備しておいてください。PPT スライドで 5 枚程度にまとめてください。

### 【5限】

みなさんの先輩でもあり、宮尾の同級生でもある関西大学の陰山孔貴教授をゲストにお迎えして、最近出版された著作について講演していただきます。

## 2月14日（土）テーマ「問いを深め、研究計画を精緻化する」

### 【1限-5限】

研究テーマについてのプレゼンとディスカッションを行います。一人あたりの持ち時間は 30 分で、プレゼン 15 分、ディスカッション 15 分を目安とします。

このプレゼンを経て、研究テーマが決まり、リサーチクエスチョンが明確になることを目指します。参考文献についてもある程度の目処が立っており、それらに対する自分の研究のポジショニングがある程度見えているとより良いでしょう。また、リサーチクエスチョンを解くためにどのようなデータを集め、どのような分析を行うかの目処も立てておく必要があります。これらを踏まえ、プレゼンでは以下の点を盛り込むようにしてください。

- 1) 自分が取り組みたいテーマとその理由（どのような問題を取り上げるのか、なぜその問題に関心を持ったのか）

- 2) 研究によって答えを出そうとする「問い」
- 3) 研究の基盤になりそうな参考文献のリスト（読んだ／読みたい文献リスト）と自分の研究のポジショニング
- 4) 問いに答えを出すために必要なデータとその分析方法
- 5) 修論提出までのおおまかなスケジュール

ただし、この時点でこれらが全て完成していなくても心配しないでください。未完成や（仮）でも大丈夫です。プレゼンでたたき台を出し、議論するのが大事です。

#### <事前課題>

プレゼンの資料を準備しておいてください。資料の枚数は問いません。

#### 2025年4月以降（M2）

それぞれの研究の進捗をゼミで報告していただきます。論文提出までを3クールに分け、各クールで全員が進捗を報告します（少なくとも3回、報告の番がまわってくるということです）。基本的に、隔週土曜日の午後にゼミを行います。詳細なスケジュールは2/14のゼミでお伝えします。

- 1 クール：先行研究の読み込みと問いの精緻化、調査・データ収集について（4-5月）
- 2 クール：調査・データ収集の結果、分析の進捗について（5-6月）
- 3 クール：論文全体のストーリー、結論として言えそうなことについて（7月）

7月末～8月初旬に合宿を行います。

#### 注意事項など

専門職学位論文は公開することが大原則です。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、みなさんの執筆する論文は、自分だけのものではなく、人類の知に貢献するものであるべきです。ですので、研究をデザインする段階から、必ず公開されるという前提で、研究計画を練るようにしてください。例えば、企業名を出さなくても論文として成立するような調査設計とする、インタビュー相手に匿名にすることを約束しておくといった工夫によって、公開できない可能性はかなり減らすことができます。

ゼミの皆さんは神戸大学の一員として「神戸大学の学術研究に係る行動規範」を遵守

しなければなりません。例えば、ルールを守らずに他者の文章を自分の論文にコピーする（引用する）のはルール違反です。そのような行為は「剽窃」と呼ばれ、定期試験におけるカンニングと同様の扱いとなり、厳罰が下されます。そのほかにも、研究者として守らなければならない行動規範がありますので、以下の URL から確認してください。

<https://www.kobe-u.ac.jp/ja/research/compliance/regulations/>

神戸大学附属図書館が MBA 生を対象とした図書館サービスのまとめサイトを作っています。参考になる情報が多いのでぜひ確認してください。

<https://lib.kobe-u.ac.jp/libraries/list/shakai/mba/>

以上